

平成25年～平成30年 中長期計画平成29年度 事業計画

社会福祉法人 宇治福祉園

1. 事業の前提・・・子どもを取り巻く現状から

◎日本学術会議子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会の警鐘（2007）

①我が国の子どもの危機⇒体力・運動能力の低下、肥満や糖尿病などの生活習慣病の増加、学力の低下、意欲の低下、不登校や引きこもりの増加、いじめやそれによる自殺など。

②改善策⇒子どもの成育環境の4つの要素「空間、方法、時間、コミュニティ」が相互に影響しあうことを念頭に、子どもの成育という視点に立ち、従来の個別的的政策を再検討し、複合的・総合的に連携する戦略を構築することの必要性について提言。

◎子どもの貧困の実態

- ①日本の貧困率⇒16.0%（2009年 OECD平均 10.6%）、子どもの貧困率⇒子ども人口の15.7%、6人に1人が貧困状態（2009年時点 OECD平均14.1%よりも高い）
- ②日本の特徴⇒母子世帯の貧困率が突出して高い。特に無職の一人親家庭よりも、母親が働いている母子世帯の貧困率が高い
- ③貧困家庭に育つことの不利⇒親の階層によって、子どもの学力のみならず、意欲にまで格差が生じる。親の収入が低いほど、子育ての相談相手もいない、助けてくれる人もいないといった孤立状態に陥りやすく、子どもとゆっくり過ごす余裕が持てない。貧困家庭では、虐待も起きやすい。

◎宇治市の現状

①在宅子育て家庭への支援、放課後児童の豊かな生活＝健全育成、居場所づくり、発達に課題を持つ子ども・家庭への支援の充実、小中におけるいじめ、不登校等々、子ども・子育て支援における課題は山積。遊び場・学び場・憩い場。

②子どもの成育環境を改善するためのアクション⇒「子ども・子育て会議」、子育ての視点から見たわが町のランドデザイン。母性の基地としての保育所・社会福祉法人の機能を活かす取り組み⇒京都地域福祉創生事業。

子どもの暮らしを守る仕組み・取組・コミュニティが求められている。
故郷のまちを150年前、日本を訪れた外国人が評したような「子どもの楽園」
にできないかなあ。。。



理念・基本方針、中長期計画、事業計画及び保育課程等に反映

わたしたちのミッション

予測される外部環境
少子高齢化、経済の停滞、
環境の悪化、国際化、
人間関係の希薄化

わたしたちに求められるもの
希望の未来
こどもの健全育成
地域の活性化

そのためにすべきこと
こどもの成育環境の
創造と再生
地域社会への関与・貢献

継続してミッションを果たすための方策
保育・教育・福祉に関する実践研究
一人ひとりのスタッフの資質の向上
組織の活性化とチーム力の向上

効率的で健全な経営のためのガバナンスの確立
積極的かつ公正な「経営行動力」⇔多様な福祉
サービスの拠点になりうる経営基盤の整備
バランスのとれた健全な「経営監視力」
⇔内部監査

日本再生の基本戦略

こどもを元気にする

地方分権
地方・地域の活性化

こども子育て
新システム

税と社会保障の一体
改革

規制改革
多様な事業主体の
参入

地球環境保全

国際化社会への
対応
地球人としての
ひとづくり

ものづくり
科学技術立国

日本の文化・伝統
日本人のアイデン
ティティ

法人の理念と各事業の目的及び組織図

(社福) 宇治福祉園 法人本部

理念：いのちを大切にする保育・福祉実践の探究

基本方針：子どもを中心にすべてのひとが日常のしあわせを創造すること

教育・保育事業

子どもの成育環境の創造と再生⇒自我・時間・空間・仲間
子育て家庭への支援 地域社会への貢献

みんなのき三室戸・黄檗・木幡こども園
対話的子ども語りの保育
体験型学習・プロセス保育
手づくり保育・環境保育

Hana花保育園
駅前保育
夜間保育

学童保育

児童発達支援事業

相談支援事業

保育所訪問支援事業

放課後デイサービス

自主事業 ニーズの発見とサービスの提供

地域公益事業
京都地域福祉創生事業

子育てサークルとの協働

退園後の親支援ひなたぼっこ

研究
人材の育成

こどもーしょん

スタッフの自己実現とキャリアパス自己評価
第三者評価

資格の取得
技術の習得

関係機関との連携

行政

団体

大学
養成校

第2園庭Kappa Run Do

笠取自然の家

1. 基本方針、中長期計画

1. 経営基盤の強化

- ・ 幼保連携認定こども園への移行に伴う新規事務への対応と資金管理体制の強化
- ・ 保育所待機児童、放課後児童健全育成事業等への対応に備えた土地の取得・施設整備計画の立案と資金計画
- ・ 放課後デイの新規開設に向けての環境整備計画及び資金計画

2. 人材育成と職員処遇、労働環境の整備・改善

- ・ きょうと福祉人材認証制度の上位認証に向けた人材育成システムの確立
- ・ 職員給与等の改善
- ・ 事業及び各種業務の質と労働環境の両立に向けた業務の見直し及び組織の改編・体系化

3. 「いのちを大切にする」という法人理念と日本の生活文化を活かした教育・保育方法の確立・発展

- ・ 子どもの人権と個性、主体性を尊重する実践
- ・ 豊富な生活体験を土台とする実践
- ・ 豊かな情操・感性、個性的想像的創造力を愛し、表現の自由と科学する心を満喫する実践

4. 保育を科学的・多面的にサポート・推進するシステムの開発

- ・ こども一しょんシステムの充実・・・認定こども園への対応、業務省力と教育保育の質とを両立する様式の作成
- ・ 研究発表・・・平成29年度全国私立保育園連盟全国研究大会での実践発表に向けての実践研究
- ・ 人材ネットワークの拡張・充実・・・教育・保育の質の向上と子育て支援の充実

5. 子どもを真ん中にした地域公益活動・社会貢献活動

- ・ 京都地域福祉創生事業「こらぶれ一しょん」の推進
- ・ 東日本大震災支援活動、災害時の自衛隊宇治駐屯地の協定

事業計画の構成

1. 基本方針
2. 重点事業
3. 実施計画

【基本理念】

「いのちを大切にすること」という法人理念に則り、一人ひとりの子ども、その保護者、家庭、地域の日常が同心円的に豊かになるよう保育方法及び成育環境の創造と社会貢献活動の推進を目指します。

【使命】

- I. 一人一人の子どもと大人の生き生きとした日常を支える。
- II. 一人一人の出会いに感謝し、すべての活動を対話的に創造し、育み合う。
- III. 子どもを真ん中に、すべてのひとが日常のしあわせを創造できるコミュニティ・社会づくりを推進する。

【役割】

1. 理想の保育者像を目指し、質の高い教育・保育の実践・創造・探究に努める。
2. 対話は福祉や教育の原点であることを理解するとともに、コミュニケーション・スキルを高め、さまざまな人たちとの豊かな人間関係を構築しつつ、ニーズの把握と丁寧な対応に努める。
3. 人的環境の一員として、技術の習得と表現力の向上について計画的に実践する。
4. 自然の恵みや身近な素材を活用し、より良い物的環境の吟味・構成・循環に努める。
5. 一人ひとりの子ども・大人が生き生きと集い、活動し、ふれあうコミュニティや地域風土を醸成する。

2. 重点事業①

【経営基盤の強化】

- ・ 幼保連携認定こども園への移行二年目を迎え、制度の熟知に努め、安定的かつ効率的な事務の執行、資金管理体制の強化を図る

①公定価格におけるさまざまな加算を活用し、適切な人員体制と財政基盤の安定を図ること

②良質な教育・保育の提供と適正な保護者負担金の両立を図ること。また、徴収の際のミスがないよう1号認定の延長保育料、他市町村からの利用受け入れによる連携事務を丁寧かつ確実に行うこと。

③運営費や補助金の請求・実績報告等の事務作業の繁忙期を見定め、計画的かつ丁寧な点検を行い、業務に当たるよう努めます。

- ・ 保育所待機児童、放課後児童健全育成事業等への対応に備えた土地の取得・施設整備計画の立案と資金計画
- ・ 障害児放課後デイの新規開設に向けての環境整備計画及び資金計画

弊法人が運営する園への待機児童対策及び「学童保育」、障害児放課後デイ等の利用者ニーズに応えるための土地の取得、環境整備及び資金計画を立て、速やかに開設できるように努めます。（取得予定地：京都府宇治市五ヶ庄梅林72番14）

3.重点事業②

【良質な教育・保育・福祉の提供と働きやすい職場づくりを目指して】

- きょうと福祉人材認証制度の上位認証に向けた人材育成システムの確立
- 職員給与等の改善
- 事業及び各種業務の質と労働環境の両立に向けた業務の見直し及び組織の改編・体系化

平成28年3月には、京都府「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証を受けました。今後は上位認証を目指して、さらに「やりがい・働きがい・生きがい」のある職場づくりに努めます。

また、平成29年度に国が実行する「保育者の処遇改善制度」を活用し、副主任級を中心とした処遇改善を図ります。

①わかりやすいキャリアパスのしくみ ②人生設計に見通しの持てる給与体系

③地位向上に向け、良質な実践を支える研修体系

④業務省力と教育・保育の質の維持・向上を両立する記録様式・システムの構築と組織体制

⑤大学院、幼稚園教諭免許所得に係る特例講座等への就学支援、奨学金制度の活用

職員処遇の改善は最重要課題の一つです。政府の施策や財源と人材を有効に活用し、誰もが生き生きと活躍できるよりよい労働環境の構築に努めます。

4.重点事業③「いのちを大切にすること」という法人理念から 日常的な幸せを創造する・生活を楽しむ保育へ

【①対話⇒良質なコミュニケーション②自己修養⇒保育者自身の生きがい・自己実現の目標と人間性・専門性の向上とを重ね、チーム力を育み合おう】

- ・ 一人一人のいのちを大切にすること⇔子どもの人権と個性、主体性を尊重する実践

子どもの側に行き、一人一人の子どもとの対話を通して、その背景と子どものすがたや活動をプロセスごと理解する実践に努めます。また、向善説、インクルーシブな理念に基づく共生社会のプレ体験の場として、一人一人の子どもの人権・尊厳を尊重した保育活動を目指します。

- ・ 自然のいのちを大切にすること⇔豊富な生活体験を土台とする実践

自然体験、畑づくり、藍染、草木染、食育⇒いのちの不思議、自然の偉大を体験的に学び、自然との対話、手間や愛情を継続的・持続的に注ぐ大切さを感謝と祝福のうちに学ぶ保育活動。さらに、故郷への愛着、食材への感謝、生活の知恵、大人への憧れや躍動する生、生活で得られる感動を生きるモチベーションや学びにするいのちの教育・保育の充実・発展を目指します。

- ・ 乳幼児期のいのちを大切にすること⇔豊かな情操・感性、個性的想像的創造力を愛し、表現の自由と科学する心を満喫する実践

子どもがその「天才」をのびのびと発揮できるよう、子ども時代を満喫し、一人一人の「やる気」や「好奇心」、「探究心」等、子どもの願いを実現する保育活動を目指します。日常生活体験の充実から芽生えたひらめきや思いつきから、子どもにとっての意味性、物語性のある（子どもの生の共同者として）、詩情に満ちた日常芸術性あふれる保育活動、体験とプロセス重視のアクティブ・ラーニングを実践方法として確立していきます。

5.重点事業④

【保育を科学的・多面的にサポート・推進するシステムの開発及び新規ツールの活用】

「こども一しょんシステム」に平成29年に改定予定の認定こども園教育保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領、京都版保育所第三者評価項目・基準ガイドライン等の内容を反映します。

また、教育・保育の良質化と業務の効率化を目指し、さまざまなICTプログラムやアプリケーションの活用チャレンジし、実践に反映できるよう努めます。誰もが簡単に質の高い教育・保育実践が可能となるよう努めます。

6.重点事業⑤

【子どもを真ん中にした地域公益活動・社会貢献活動】

29年度も「京都地域福祉創生事業 くらぶれーしょん、保育園へ遊びにおいDay」を京都府社協と連携・協働のもと実施します。年54回計画しています。

(1) 「憩い場」

くつろぎ・交流スペース。栄養士による日替わり手づくりクッキーに湯茶を無料で提供。日ごろお茶をいただく暇も余裕のない親御さんの、親子共々の仲間づくりや、気軽な子育て相談の場として活用しています。小学生以上の子どもも自由に行き来しています。

(2) 「遊び場」

当法人の保育の特色である、手づくり環境、つくる・描く遊び、運動・泥んこ等のダイナミックな遊び、乳児コーナー等を設け、赤ちゃんから大人まで自由に遊びを楽しんでいます。

(3) 「学び場」

小学生以上の子どもが落ち着いて勉強がしたいとき、必要に応じて設定するスペース。今はまだ利用が少ないですが、学習支援や大人も利用できるシェア・オフィスの

ような「場」にしていきたいと考えています。

(4) 「利用者・協力者がつくるプラスαの場」

(5) セミナーの実施

看護師によるベビー・マッサージ、臨床心理士による子育て・教育に関する講義、アーティストによる実技講習など、参加者の世界づくり、仲間づくり、自分づくりの拠点として、日常保育と相互的に展開します。



学童保育
みんなのき
クラブ

みんなの
き三室戸
こども園
定員180名

みんなのき
木幡
こども園
定員40名



家庭的保育
はないろは
定員5名

社会福祉法人
宇治福祉園
1973 (昭和48)
年
設立

南部小前
第2園庭



笠取自然
体験の家

児童発達
支援
こどものき
定員40名

みんなのき
黄檗こども
園
定員120名

Hana花
保育園
定員60名



こども園だからこそ生活を根本に 『アイデアル・サイクル』

- I — Identity, Imagine, Idea, Inspiration : 主体性・
- D — Do, Design : 行動、体験、デザイン
- E — Enjoy, Empathy, Excitement : 楽しむ・共感・感動
- A — Art, Act : 芸術・美術・技術
- L — Lovely, Lively, Life : 愛するということ・生活リズム、
Ideal=理想 そして「愛である」

ライフ・スタイル⇒達成度よりも手間・暇をかける教育・保育を重ねていきたい

生きるスタイルを育む教育・保育を子どもたちと





項目	内容	内容	内容	内容	内容
1. 導入	● 導入の目的、学習目標の提示 ● 学習内容の概要の提示	● スーパーの役割 ● 実生活での役割 ● 食生活の改善 ● 食生活の改善 ● 食生活の改善	● スーパーの役割 ● 実生活での役割 ● 食生活の改善 ● 食生活の改善 ● 食生活の改善	● 食生活の改善 ● 食生活の改善 ● 食生活の改善	● 食生活の改善 ● 食生活の改善 ● 食生活の改善
2. 実践	● 実践の目的、学習目標の提示 ● 実践内容の概要の提示	● 実践の目的、学習目標の提示 ● 実践内容の概要の提示	● 実践の目的、学習目標の提示 ● 実践内容の概要の提示	● 実践の目的、学習目標の提示 ● 実践内容の概要の提示	● 実践の目的、学習目標の提示 ● 実践内容の概要の提示
3. 振り返り	● 振り返りの目的、学習目標の提示 ● 振り返り内容の概要の提示	● 振り返りの目的、学習目標の提示 ● 振り返り内容の概要の提示	● 振り返りの目的、学習目標の提示 ● 振り返り内容の概要の提示	● 振り返りの目的、学習目標の提示 ● 振り返り内容の概要の提示	● 振り返りの目的、学習目標の提示 ● 振り返り内容の概要の提示





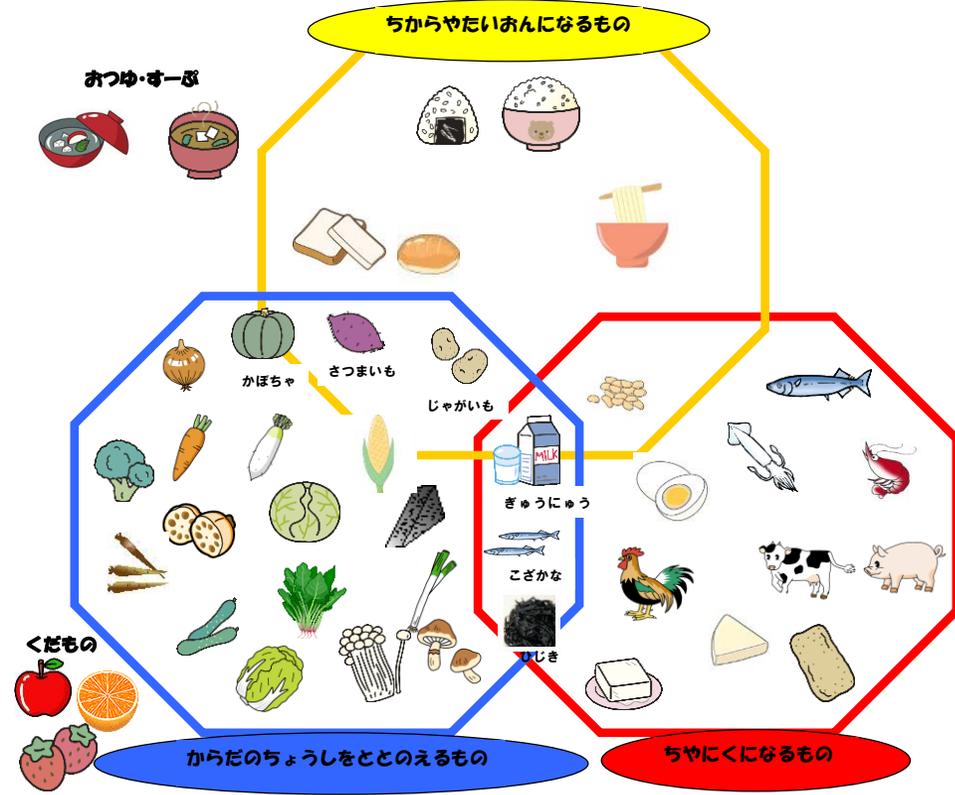




平成27年 5月度 < ぐみ <る一ぶ>
 聞き取り日 (4月 日) 聞き取り者 ()

なまえ:

メニュー予定日 5月 日 ()
 ごはんの希望
 おやつ希望



- 5月においしいもの
- あすばらがす
 - いちご
 - ぞらまめ
 - しんたまねぎ
 - もよみおれんじ









1. 養護を前提とした乳幼児教育・保育

- 養護は母性的・インクルーシブ 老若男女すべての人が受け容れられて在る世界

『こどもは小さくても人間なのだから最初から心を込めて扱わねばならないし、まだ頼りない人間であるから何よりも安全を実感させてやることが大切である。こどもは自分が安全に護られている、愛されていると感じるとき、無邪気に外に向かって動き出す（養護の役割）。』

愛情を注いでいると . . .

- 抱っこしたり
- 語りかけたり . . . 歌いかけたり . . .
- 愛おしいという気持ちが表情や行動になって子どもに伝わって
- あったかい気持ちが「安心」となって子ども心に芽吹いて
- その「心の基地」から周りの世界へ旅立っていき . . .
- 生まれ持った「能動性」＝「天才」を発揮し始める

甘え等の依存欲求を満たす→愛着→反抗（愛着からの分離）、家庭・母港⇒出港
10代から非行や犯罪に走る共通点は生後六ヶ月から十八ヶ月、自分で移動できる
→不安があると振り返って立ち止まる、**安心できる人**を探して**見守ってくれる人**
を探す→これが決定的に不足している。

共感性（対人能力）は**道徳の根源**である

人の痛みがわかる、知徳体の底辺に感性がある・・・授乳中の携帯電話から道徳の崩壊が始まる

大切に育てられなかったら自分を大切にできない

泣いている赤ん坊の要求に何千回も答えることが、その子どもが将来人間との関わりに喜びを感じるための健全な能力を得る助けになるのだ

（ブルース・ペリーアメリカの乳幼児精神医学者・脳科学者）

2.環境を通した乳幼児教育・保育・・・能動的学び手として子どもの主体性を尊重する教育保育の根本

●教育の三要素⇒①世界づくり、②仲間づくり、③自分づくり

①世界づくりは、世界を愛し、よりよい世界をつくる道である。

②仲間づくりは、人を愛し、よりよい共生、共同体をつくる道である。

③自分づくりは、自己の生きがいや生きる価値を見出し、自らの生を全うする道である。

『こどもの発達は、それゆえに、こどもがおとなの助けを借りながら自分のからだを使って行う新たな自己と世界の探検と発見の旅であり、このこどもの画期的な体験を支援してやるのが本当の教育的な援助である（和田修二氏）』

社会的相互作用の魅力的なパートナーとして

- 子どもは「ひと」が好き . . .
- 子どもは「もの」が好き . . .
- 子どもは「生きもの」が好き . . .
- 子どもは世界や社会と交信するように「ひと・もの・こと」へかかわり、相互作用によって世界を味わい、広め、深めていく
- この相互作用を支えたり . . . 促したり . . . 一緒にしたり
- Before⇒素敵な未来への予感、待つこと
- Just⇒「生」の感動を共にする共感・協働の喜び
- After⇒肯定感・賞賛・きめ細やかな評価をつぎへ
- 「意味が躍動する生」の喜びの「体験」と「有用な学び」を重ねる「経験」と

3.教育保育の専門性：対話と自己修養の観点から

- 愛着の形成から基本的信頼の獲得、自尊感情を育み合い、共同する体験・遊びや仕事を通じて仲間と一緒に自己実現を目指す。平和を目標とするインクルーシブな共同体へ。コミュニケーションの質が幸せづくりの原点
- やさしさの専門性⇒子どもが好き、人間が好き、便の世話・オムツを洗う喜び
- コミュニケーションの専門性⇒あたたかさの交流、おおらかさの交流、きめ細やかさの交流、柔軟さの交流、おもしろさの交流」
- 子どもの好奇心や願い、活動やつぶやきから始まる教育保育活動⇒子ども主体の教育保育活動がもたらすライフスタイル

●保育者自身の自己修養⇒創造する持久力⇒つくることを日常の営みへ

0, 1, 2歳児の担任は、子どもの様子と対話しながら日々の保育環境を構成

3, 4, 5歳児の担任は、子どものやってみたい、なりたい等の願いを収集し、つくる遊びへ誘導する。

つくることを通して専門性を身につけていくと同時に正統的周辺参加論の親方として自己を磨いていくライフスタイルを園、地域の子育ての土壌へと導いていく

※身近なものやこと、ひととの出会いから始まり、それらに好奇心を持ち遊び、関わりつづけているうちに、きれい、おもしろい、なぜ、どうして等々の、感動や喜びを生きがいに変えていく。

わたしたちが用意している環境

- 多様な経験を生み出す乳児室・低年齢保育室・園庭
- 本ものと遊びのジャングルを謳歌する（Q）教育保育活動⇒ごっこあそび・創造的表現活動⇔栽培・畑（第二園庭）⇔散歩⇔園外保育⇔自然体験の家⇔リクエストメニュー・エプロンタイム・クッキング・草木染・藍染・紙漉き⇔音楽家、人形劇・民俗芸能・影絵等々のアーティスト、農業士、染色家、陶芸家
- 多様な職種 of 保育者チーム
- こらぶれーしょん⇔憩い場所

4.現代日本における子どもの課題及び日本文化の維持・発展と地域創生の観点から

- 自然体験・・・自然への愛情、体力、自然の草木、花などを活かす遊び
- 生活文化にふれ、親しむ体験・・・手間の中に好奇心、探求心、感動を見出す
- 食育（梅干し、みそ、米・野菜の栽培等）、藍染め、和紙づくり、衣食住の生活の根本的な成り立ちについて体験的理解を促し、それらに対し愛情を育む取組み
- 地域の人、アーティスト、農業家、専門家、職人さん方とのつながり⇔地域コミュニティの再生と創造による子育て支援、地域支援⇔日本の優れた文化を保育・教育内容へ、運動、音楽、造形、アート、科学、等、躍動する生の主体として新たな世界を創造しながら文化を耕す取組み、生きがいのもととなる取組み

5. 共生のかたちを不断に探究する目覚めと創造の生涯教育の観点から

- 大切なことは瞬間的な到達よりも、持続的に人間性を育み、幸せなライフスタイルを獲得していくこと
- 向善説・・・老若男女誰しも可能なこと。
- 「人間の幸せの条件とは何か。平和に向かって生きるための心情、意欲、態度はどのようにして育まれるのか。」について吟味し、教育保育を探究・創造しつづけること。